

〔海況概要〕

今週の本県近海の表面水温は、23～26℃台を示し、やや高い水温でした。

〔漁況概要〕

- 中小型まき網――月夜間とシケのため出漁日数が少なかった。西彼地区では、マアジなどが1日1統当たり11トンの水揚げで、前週の2.2倍（前年を上回った）。五島奈留地区では、マサバなどが1日1統当たり0.5トンの水揚げで、前週の25%（前年を下回った）。
- イカ釣――ケンサキイカは、対馬東岸地区では1日1統当たり17kgの水揚げで、前週並み（前年を下回った）。壱岐勝本地区では、1日当たり24kgの水揚げで、前週の5%（前年を下回った）。
- 定置網――対馬西岸地区では、マアジなどが1日1統当たり178kgの水揚げ。対馬東岸地区では、ケンサキイカなどが1日1統当たり74kgの水揚げ。
- 一本釣――北松宇久地区では、ヒラマサが1日当たり104kgの水揚げで、前週の36%（前年を下回った）。野母地区では、マアジが1日1統当たり35kgの水揚げで、前週の2.3倍（前年を上回った）。

〔日本海スルメイカ情報〕

今期（10/10日～10/15日の6日間）沖合イカ釣り船、船凍船は日本海（大和堆付近）へ出漁したが、悪天候の為、各港に避難した。

沿岸イカ釣り（氷蔵船）は、壱岐・対馬及び山口沖～隠岐海峡～鳥取沖～兵庫沖～能登半島沖にかけて出漁した。

鳥取県西部：2日延18隻、総計611箱、1航海最高110箱、平均33.9箱、スルメイカを中心に漁獲、魚体は20～30入主体。漁場は山口沖～隠岐海峡～鳥取沖～兵庫沖～能登半島沖にかけて形成した。今期はシケの為、漁獲は減少した。

（漁業情報サービスセンターより）

〔お知らせ〕

漁海況通信「第31-30号 長崎県周辺海域の海面水温（10月号）」を長崎県庁ホームページに掲載しています。

長崎県庁ホームページ「地方機関 総合水産試験場」の「漁海況情報」から漁海況週報や漁海況通信をご覧いただけます。

<https://www.pref.nagasaki.jp/section/suisan-shiken/index.html>